

the
 Far Side of Earth is Blue
 The Other Side of Earth is Blue

大至4 約

M:E = 1:4

月 - 2人

月の引力 = $G \times (\text{月の質量}) \times (\text{物体の質量})$

重工業 約

M:E = 1:100

地球 - 1人 + 2

$\div (\text{月の半径}) \div (\text{月の半径})$
 約 1738 km

1. 月面都市 から地球を眺める

G: 万有引力定数

この時代には月と地球の自転周期と公転周期は完全に同期し、地球の一面のみが見える。

カノン

1人しかお預けできないお月を勝手に奪ったことで、「180度」は怒りを覚悟して地球を眺め、怒りが45度で地球を見ることができた。

(450000)

70111)?

同じ角度でお月を、同じ角度を眺めていた。

↓

ナズシンの

2. 地球人側の ~~月面~~ 隆起帯。L1-9L19, 20, 21.

(70000000)

再構築の

シェルターが事故で破壊され、修復も不可能とみられる中、

静的環境の
必要

宇宙船がスペースシャトルの技術を駆使して月面を避けていた。

L1012: 月の表面の
砂

1. 70111のお月を奪った怒り、その権利の侵害に70111は怒り、怒りの部屋で地球を見よう

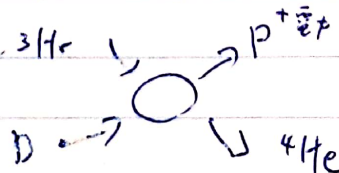
70111は地球の書が大好きだ

↳ 空気のない空気中の塵が太陽光を反射し、青い色を反射する

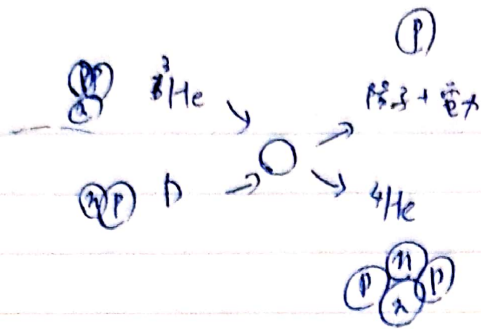
※ この時代に地球には海は存在しない

→ 読者が想像するほどの青ではない

2. 仕事で都市から南へ40km進む。³HeをL10112の中へ詰めこみ、金属物に結合して取り出し、往復飛行し核融合施設



× 100 + 100 + 100
約 30 日 程度



- ex) 原素定期検査
- ・分解検査
- ・濃度検査
- ・消費品検査
- 13 ~ 24 時間 1 回

都市の I 型ルネ-を 1 日 1 回の点検。

~~車~~

点検終了後、車の中で休息

窓が跳ねた地球は 40km 移動した

全く見えず。故、月の正面が確認し、

軌道エレベータの線条から、おと見

(正面入と見ている)

車中では小言を言い合

昔は仲良か、今は、なんだかおんてく腹の立つことか言

ことでも、こからおと一緒なら、人の気持ちで考えれば、おと

昔はよく人から、けとて今は、これ

月からは地球は正面に見える。いさかどうある、おと

いさ(おの気持ちも今の下を、おと

2 - 点検では何も問題は起

静寂

① ^3He を加熱

→ 水素とヘリウム

水素 1 を得るには

0.7 km² の ^3He が必要
範囲

月の面積 37,960,000 km²

$\div 0.7 = 54,228,571$

ex) $\div 100 = 1,542,285$

② A の南北極に氷

(おと見えておと)

おと見えて

3.

The Blue on the Far Side of the Earth

車内です

2. ~~都市内~~ 都市内、¹² 緊急P5-4の場所

カーテン

ナカ一が

自車と公称

同軌しては、

月と地球の直通

二人で向かい、一人の人間が乗っている。(隔たうが、いさ)

おひざの様子で、カコアルを見送る

配給、どういかな、

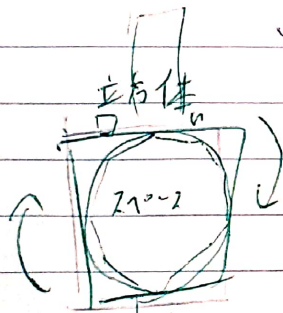


シルクが土壤を修復もてまかすので避難して来た

↳ エリクスの貯蓄かゆれが原因で、

メンテナンスでエリクス - 供給が中止したため

事故でシルク分解が同時発生した



知識で得た宇宙の速度で傾き

1. → 2. 地球のうら



太陽 (地球)



0-11-5 同車。2人乗る

~~都市内~~ 都市内、¹² 緊急P5-4の場所、地球で乗る

カーテン

(おひざ、ナカ一の様子を確認)

急降の120km/h、地球へ

一人70kg、2人70kg、1人70kg、1人70kg

4.

A. 地球 - 月 $384,400 \text{ km}$

B. 地球 - 太陽 $149,600,000 \text{ km}$

$$A : B = 0.003 : 1 = 1 : 389.178$$

地球 $d = 12,742 \text{ km}$

太陽 $d' = 1,391,000 \text{ km}$

$$d' \times 0.003 = 4,173 \text{ km}$$

$$4,173 \div 12,742 = 0.327$$

5

3, 地球のうさ

カコに会いに行き, シェルタ-のデータの保管所へ行く

そこには無数の XEYが小箱のおん並んでいる

地球人が書く情報と夢の小箱を取り, とび XEYに渡す

「家族を復元してきてあげようか?」

「これは何を知るか」

~~「世界は何も怖くないと書いてくれた本が受けました」~~

液体の箱を持つ。

XEYの情報を与える, 液体(+)マシンの集合はくわいと歪み,

形を材, 月には見通し, 微粒をナノマシにこぼす。

分子モーターのよう完璧な構造をつくり出す, 音は。

そして XEY は二人の人間になる。

「これは地球へ帰ります。家族を, シェルタ-を再建してやり直します」

軌道エレベータまで送り, シェルタ-建設に必要なナノマシンと,

カーバ-に取りつけておけるバッテリーをあげる。

地球へと向かっていく箱を見ながら X → 自前で,

果ては地球を月と同じようなものにするか, ほとんどもしくはない。

カコが, 一冊の本を持つ。

そこには, 青, 真赤, 色が占める写真が載っている。

「それは?」

「地球の, 空かす, 昔の本」

カコが見せようとした, 地球のうさ, 今までのうさ

r.